



G A H
R P

訪問看護で介護予防を推進する 「見守り訪問モデル事業」

東京都世田谷区

高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けるために、地域では「介護予防」の取り組みが進んでいる。世田谷区では2009年度から、介護が必要になる恐れが高い高齢者の居宅に、訪問看護師が訪れ、相談・支援をする「見守り訪問モデル事業」を実施している。今回はその取り組みを紹介する。

上／住民宅を訪れ、健康状態をアセスメントする看護師。
下／同事業を実施する世田谷区地域福祉部介護予防・地域支援課。





区が作成したフェイスシートに基づき運動・移動など生活状況、既往歴など健康管理、食生活・栄養状況をアセスメントし、相談・支援を行う。血圧測定や介護予防体操の指導の他、区の介護予防事業への参加の意思も確認する。

介護の重度化を防ぐには 看護師の力が不可欠



この日の訪問では、水分不足の改善のために必要な水分量や食事の指導、介護予防運動を中心に行った。住民からは、服薬中の薬に関することや、住居内での転倒予防などについて相談があった。



区が作成した介護予防パンフレットに掲載されている筋力アップ体操を基に、自宅でできる介護予防運動を実践してみる。



上/2カ月に1回、同事業の担当看護師のミーティングを行い、訪問の成果や課題を振り返る。世田谷区社会福祉事業団はモデル事業の専属スタッフを配置し、支援する体制を取っている。下/訪問を終えた看護師は、訪問結果を取りまとめて事業団に報告。①助言・指導で終了、②閉じこもり傾向あり・継続訪問実施、③訪問は不要だが電話でのフォロー実施、④緊急のため他機関連絡、⑤見守り体制支援のため地域包括支援センターへ連絡、について評価する。



岡本和子さんは以前、病院に勤務していたが、子育てを機に退職中。「おせっかいな面もありますが、地域の高齢者の支援に直結する事業。住民の方が行政とつながるきっかけになるといいですね」

訪問看護の経験を持つ矢野美紀代さんは、栄養面からの介護予防に看護師が関わることに興味を持ち、今回の事業に応募した。「訪問した方は皆、身を乗り出して話を聞いてくれる。健康意識を引き出すために、看護師が関わる意義は大いだと思います」



世田谷区が作成したパンフレット「介護予防をはじめよう!!」。生活機能を確認できる「介護予防基本チェックリスト」や筋力アップ体操、地域包括支援センターの相談窓口一覧などを掲載。